

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	長野県	代表者名	阿部 守一		
担当者部署	DX推進課	連絡先電話番号	026-235-7146		
担当者役職	主査	担当者氏名	北岡 朋也	連絡先E-mail	
住所	380-8570 長野県長野市南長野幅下692-2				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	遠藤 守
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	先進自治体の例を挙げながら、将来的に停滞しない仕組みづくりが肝心であり、そのためにすべきことをお示し頂きました。導入しても活用が停滞してしまっている事例がある中で、組織作りは課題であると認識しつつも、まだやるべきことがあると先送りしていた感があります。 次回の研修会は、県に限らずデータ連携基盤の活用を実施又は検討している団体にとって、地域を巻き込むという課題への第一歩として知見が深まる会になると期待が高まりました。
アドバイザーへの要望事項	研修当日は、従来の市町村だけに限らず庁内外から幅広く参加者を募る予定です。グループワークについて、各立場を交えた幅広い議論での拡散・集中については経験がないため、要所所での確な方向付け・ご指導頂ければ幸いです。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり		
	令和6年1月15日	事前打合せ(オンライン)	無		
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
			10時00分	12時00分	
			活動時間（分）	120	
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/
------	---------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	県職員4名及び自治振興組合職員1名	5人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	県が設置したデータ連携基盤は、県内市町村は費用負担なく利用できる取組である。現在は、災害予測分野でのみ利用されており、様々なデータを取扱うことで能力を発揮し新たな価値を生み出すツールとして、県は利用分野を広めたいもののニーズを探っている段階に留まっている。市町村の参画を促すには、市町村職員が有用な情報を得られるツールであると認知してもらうことが課題と感じている。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	データ連携基盤の運用は、ユースケースが見えないことにより、どんなデータを活用するかがイメージできず、上手く活用されていない団体があるという話題が散見されている。 住民へサービスする立場である市町村が、利用者とデータ提供者の双方の立場としてワーキングに取り組むことによって、データ連携基盤を利活用し、積極的な活用に繋がるよう支援を頂きたい。 市町村の理解が進むことで、データ連携基盤の活用が進み、サービス展開が拡大することを目指している。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	県及び市町村のデータ利活用・データ連携基盤の取組を共有した上で、愛知県内の先進自治体の取組や総務省アドバイザー会議での情報を交え、将来的には市町村同士が連携できる仕組み・システムに頼らずとも回る仕組み等、継続できる体制作りが大切である旨の大筋を説明頂いた。 これを踏まえ、研修会において実施する内容についても、県が取り組みたいことを含んだテーマとして『具体的なDXを考える』とし、講義及びグループワークという2部構成で実施することとなった。	

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	データ連携基盤の利活用につながるニーズを探るといふ、県の立場としての研修実施を目指していたが、その根本となる市町村の課題についてフォーカスし、最終的には地域が改善するために必要不可欠な体制作りをしていくために何が必要となるかを探る研修会へと、今後の継続できる仕組みづくりの第一歩として改善ができた。 また、県が求めているデータ連携基盤のサービスメニューも、課題解決に向けたデータは何かということによってグループワークの中で参加者に考えてもらうことによって把握は可能であり、取組結果を反映したサービス提供も目指せると認識した。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 講演(研修会)に向けた事前打ち合わせのため。現在、市町村へはデータ利活用に関するアンケートを実施中であり、その結果も本支援の研修会及びフォローアップで活用を予定している。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	来年度、データ連携基盤の取組を推進するための協議体を始動すること。併せて、県が設置したデータ連携基盤にてAPI形式で提供するよう、担当部署へ意見提出する。	

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

